



近中スタッフ紹介

このコーナーでは、近中スタッフの多彩な側面を紹介しています。

ボールを追いかけて

呼吸器内科医員 國屋 研斗



私の趣味はサッカーです。学生時代から週末は海外のサッカーを観戦し、推しチームの勝利に歓喜したり、敗北に打ちひしがれたり、、日常では味わえないような興奮や感動を楽しんでいます。

去年はカタールW杯があり、日本代表が惜しくもベスト16でクロアチア代表にPK戦で敗れたのは記憶に新しいのではないのでしょうか。その他にもU-20(20歳以下)W杯が開かれていたり、現在は女子W杯も開催中だったりします。今年の11月にはU-17(17歳以下)W杯も開催され、ひっそりと楽しみにしております。

そんな私ですが学生時代はサッカー部に所属しており、日夜ボールを追いかけておりました。しかし最近はサッカーどころか軽い運動をすることもなく、このままではメタボ体型まっしぐらではないかと不安に駆られる日々でした。そんな中、旧友からフットサルをしようぜ!!とお誘いを受け、少し前ですが、久々にボールを蹴ってきました(サッカーだったら本当に心肺機能が持たないのでフットサルで良かった)。数年ぶりに全力疾走したり、ボールを蹴ったりすると、なかなか思うように身体がついていかず、運動不足を痛感しました(プレー中に筋肉や関節から変な音が何度もしました)。数回やった程度で身体が絞られるわけでもないため、今後も機会がある時はやってみようかなと思っています。とても疲労がたまりしんどかったですが、もともと自分が一生懸命やっていたスポーツでもあったので、苦しい中でもすごく充実感が得られました。元々その他の種目を頑張っておられた元スポーツ少年/少女の方々も久しぶりにプレーしてみるとストレス発散や健康にいいかもしれないですね!!



近中ねっとわーく

当院では、地域の医療機関と、機能や役割を分担しながら、患者さまに継続した医療を提供しています。このコーナーでは、当院と連携している医療機関をご紹介します。

こいだ腎泌尿器科クリニック

鯉田 容平 先生

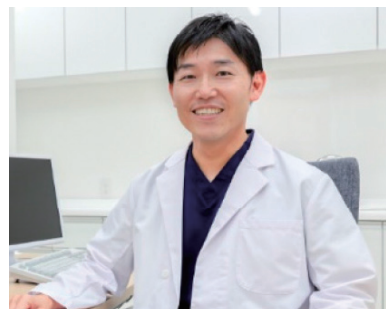
診療科 泌尿器科、腎臓内科

〒664-0858 兵庫県伊丹市西台1丁目8-17

☎ 072-744-6660

	月	火	水	木	金	土	日・祝
午前診 9:00~12:30	○	○	○	○	○	※	—
午後診 15:00~19:00	○	○	○	—	○	—	—

※土曜日は9:00~13:00の診療です



2023年6月に伊丹市西台1丁目に泌尿器科・腎臓内科として開院致しました。男性に多い前立腺肥大症や尿路結石など腎・泌尿器科全般の疾患から女性に多い膀胱炎や過活動膀胱、子供の夜尿症など幅広く診療しております。当クリニックでは患者さんそれぞれの症状に向き合い、気軽に相談出来て、身近に感じてもらえるクリニックであるよう努めております。頻尿や尿失禁など尿のトラブルでお悩みの方はお気軽にご相談ください。

阪急「伊丹」駅より徒歩2分にあり、駐車場を19台完備しており通院にも便利です。入院や精密検査が必要であれば総合病院との連携も図っておりますので安心して受診していただけます。どうぞよろしくお願い致します。

ご自由にお持ち帰りください

近畿中央病院広報誌

きんき

124

2023.10

市民健康講座WEB配信

「糖尿病の基礎知識と災害時の備え」

糖尿病の病気・動向と災害時の備えについてお話をします

副看護師長 中馬 潤子
(令和5年7月)

閲覧方法はホームページ
検索もしくはQRコードにて



- Hot Topics : がん相談支援センターの紹介と就労支援について
- スタッフ紹介 : 國屋呼吸器内科医員 / ボールを追いかけて
- きんちゅう基金のご案内
- こいだ腎泌尿器科クリニックを紹介します!



公立学校共済組合 近畿中央病院
理念: 職域と地域に伝える信頼の医療

〒664-8533 兵庫県伊丹市車塚3-1
TEL 072-781-3712 (代表)
URL <https://www.kich.itami.hyogo.jp/>

発行責任者/病院長 甲村 英二
発行/近畿中央病院 広報委員会
発行月/2023年10月 第124号



がん相談支援センターの紹介と就労支援について

がん相談支援センターについて

「がん相談支援センター」は、がん診療連携拠点病院に設置されている、がんに関する相談窓口です。

当院では入院受付の左隣にある地域医療福祉センター内に併設されています。「がん相談支援センター」では、がん相談の看護師や医療ソーシャルワーカーが、相談員として対応しています。対応の範囲は、患者さんだけでなく、ご家族や、当院に通っていない地域の方々など、どなたでも無料・匿名で利用できます。

相談の方法は対面相談のほかに電話相談も可能です。相談内容も診断や治療の状況にかかわらず、どんなタイミングでもがんに関するさまざまなことを相談することができます。がんの疑いがあるとされたとき、診断から治療、その後の療養生活、さらには社会復帰と、生活全般にわたって疑問や不安を感じたとき、一人で悩まず、お気軽に「がん相談支援センター」にご相談ください。

また、何を相談してよいのか分からない、といったときにもご利用ください。ご希望に合わせて、お話を伺い状況を整理し、情報を集めるためのお手伝いをします。

その他、がんの診断、治療や副作用、治療後の療養生活、お金や仕事、学校のこと、家族や医療者との関係、疑問や心配、不安など、どんなことでも相談できます。ただし、担当医に代わって治療について判断するところではありませんので、ご注意ください。

相談内容が、相談者の同意なく担当医や病院のスタッフを含め、ほかの人に知られることはありませんので、安心してご利用ください。



就労支援について

2019年で、がん患者の約4人に1人は、20歳から64歳までにがんと診断されています。その前年に実施された調査では、がんと診断を受けて退職・廃業した人は就労者の20%近くを占めて、そのうち初回治療までに退職・廃業した人は半数(56.8%)以上となっています。

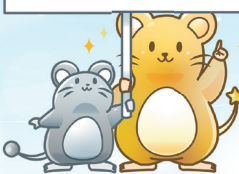
近年、がん医療の進歩で全がん患者の5年生存率も上昇し、がん患者・経験者が増えて働きながら、がん治療を続けることが特別ではなくなってきました。このため、がんになっても生き活きと働き、安心して暮らせる社会となるように、働く世代のがん患者の離職防止や、再就職のための就労支援の充実を図ることが、情勢的に求められています。

当院の「がん相談支援センター」で就労に関する相談を受け付けています。また、オンラインでの社会保険労務士との面談調整も行います。

仕事を辞めてしまうその前に、「がん相談支援センター」で相談を試みてください。



きんちゅう基金



きんちゅう基金のご案内

近畿中央病院では「きんちゅう基金」と称し、広くご寄附を募っております。

当院は、昭和31年の設立以来、「職域と地域に応える信頼の医療」を理念として、地域の皆様や社会の要請に応えるため多様な医療を提供してきました。

今後も患者さん一人ひとりに安全で質の高い医療を提供し、高度な機能を有する病院として社会の期待に応え、また患者さんにとっても職員にとっても心の温まる「やさしい病院」を目指して精進して参る所存でございます。

いただきましたご寄附は、患者さまへのさらなるサービスを充実させる取り組みのほか、病院運営や診療、看護のために大切に活用させていただきます。患者さまやそのご家族をはじめ、多くの皆様におかれましても、「きんちゅう基金」にご協力を賜りますようお願い申し上げます。

※当院は寄附の税控除対象法人ではないため、2,000円以上のご寄附をいただいた場合でも、税金の控除対象とはなりません。



ご寄附の方法

詳しくは会計管理課までお問い合わせください。

分娩取り扱い終了のお知らせ

当院は、長年に渡り分娩を取り扱い、産科診療に携わってまいりましたが、諸般の事情により、2024年(令和6年)1月末日をもちまして分娩の取り扱いを終了させていただきます。今後は下記のとおり対応とさせていただきます。

- お受けできる妊婦の方:分娩予定日が2024年(令和6年)1月15日まで
- 分娩予定日が2024年1月16日以降の妊婦の方につきましては、分娩をお受けできませんのでご了承ください。
※他院で出産(里帰り出産等)を予定されている妊婦の方は、他院へ受診されるまでの妊婦健診につきましては当院でお受けすることができます。
- 母子保健外来での助産師の健診、育児(母乳)相談は継続いたします。妊婦健診時の助産師による健診や保健指導、プレマセミナー(母親学級)は引き続き行います。母乳相談や育児相談、乳房トラブルへの対応は引き続き行います。他院で出産された方もどうぞご利用ください。

